

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立開成小学校		
1 前年度 評価結果の概要	①「学級経営の充実」については、2回のQ-Uテストの実施や人権教室などの取り組みにより成果が見られる。「生徒指導の充実」については、凡事徹底の意義や「開成スタイル」を児童に浸透させ、更なる指導改善を目指す。 ②「特別支援教育の推進」については、授業公開や講師招聘研修等を生かして児童の特性に合わせた学習形態や過程を再考し、教員・ICT活用等を工夫した支援に成果が見られた。「学力向上の推進」に関しては、全国・県学習調査の結果分析を生かして学力の二極化への手立てとして基礎基本の定着や問題設定や学び合いの工夫を今後も継続していく。 ③「心身の健康維持」についてはスポーツチャレンジの取り組み、生活チェックや食に関する指導、保護者啓発により成果が見られた。「自己有用感の醸成」については、キャリア・パスポートの活用や地域人材活用授業を継続し、現在の学びが将来につながるよう意識させるように教育課程の工夫・改善を図る。		
2 学校教育目標	豊かな人間性をそなえ 自ら学ぶたくましい子どもの育成 ～やさしく かしこく たくましく～		
3 本年度の重点目標	①生徒指導の徹底と学級経営の充実 ②特別支援教育の充実と学力向上の推進 ③心身の健康維持と自己有用感の醸成		

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践	○学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師95%以上をめざす。	・教職員間でマイプランを共有し、PDCAサイクルにもとづいた取り組みを推進する。	B	・マイプランを意識した授業を行っている職員は95%で概ね達成。授業スタイルも共通理解できている。考えを伝え合う場面設定だけでなくその内容のレベルアップを図る。それにより、学力の向上につなげられる。	B	・マイプランを意識した授業づくりを行っている教職員の割合が89%であった。学力の向上につなげるために、定期的にマイプランを振り返る機会を設定し、授業改善を継続してまいりたい。 ・今後も学力向上にマイプランを生かしてほしい。	B	・マイプランは上手く活用されていると感じる。今後も成果や学力向上がアップすることを願っている。 ・定期的にマイプランを振り返る機会を設定し、授業改善を継続してまいりたい。 ・今後も学力向上にマイプランを生かしてほしい。	
	○校内研究の取り組みを柱とした主体的に学ぶ授業づくり	○単元テスト等で「思考・判断・表現」での75%以上をめざす。	・問題解決型の授業スタイルを共通理解し、「自分の考えをもつ」場面「考えを伝え合う」場面を意識的に多く設定する。	B	・8月時点の「思考・判断・表現」の平均点は78.1点。数値目標を達成した。今後考えを伝え合う活動を充実させ、割合以上の定着をはかる。校内研究を中心に授業改善の具体的な事例を集め、全職員で改善に取り組む。	B	・問題解決型の授業スタイルを共通理解し、取り組んだ結果、算数科の「思考・判断・表現」は前回より19歳増し、30点に到達した。またほとんどの職員が校内研究の充実により「自分の考えをもつ」場面「考えを伝え合う」場面を意識的に多く設定することができた。	A	・自ら考え、行動することはとても大切で、学習面で重要なポイントだと思う。どの児童も発言できる教室であってほしい。 ・先生方は児童が主体的に学ぶことを意識して授業されている。校内研究の充実した成果が見られる。 ・成果目標より高い数値で、先生方の研究の成果を感じる。	学び部 研究主任 学力向上対策コーディネーター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケート「心の教育」に関する項目で、肯定的に答える児童85%以上をめざす。	・人権教室・人権学習会(平和・人権)・道徳等の授業を行い、人権尊重の感性を育てる。 ・参観日やフリースクール等において、ふれあい道徳の授業や人権学習等を公開する。(地域連携)	A	・計画的に人権についての学習を実施しており89%の児童が相手の気持ちを大切に生活を送っている。人権教室や道徳の授業に加えて、委員会活動で友達の良いところを見つける「ほかほかの木」や異学年と遊ぶ「交流タイム」などの取り組みが効果的であった。	A	・計画的に人権教室や道徳の授業を実施し、異学年交流などの取り組みを行った。その結果、他者を大切にすることが育ち、アンケートでは約9割の児童が思いやりのある言葉遣いをしていると回答した。本校の人権教育に関して87%の保護者が成果が出ていると肯定的に捉えている。	A	・登下校時、異学年の子供を支える様子が微笑ましい。 ・無意識の思い込みで他人に嫌な思いを感じさせている。人権・心の教育は、児童の早い時期から行う必要がある。 ・児童、保護者とも身近に人権について具体的な考えが育っている。人権教室や冊子「種をまこう」を活用した授業も積極的。	こころ部 道徳教育推進教師 人権・同和教育担当者
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「開成小いじめ0宣言」を守って生活している」に肯定的回答の児童75%以上。「いじめへの組織的対応を適切にしている」に肯定的回答の教師90%以上をめざす。	・「0月のわたし」や「ほっとタイム」の活用「気になる子」の情報共有によるいじめの未然防止や早期対応・再発防止に努める。 ・管理職を交えた複数の職員による事実確認や組織的対応をする。	A	・定期的に行うアンケート結果を担任はもとより教育相談の担当者も全校児童分確認し、児童の声を組織的かつ迅速に把握している。いじめ撲滅に向けた学級指導が実施し、91%の児童に「いじめをなくそう」という意識がある。また100%の教師がいじめ対応を組織的かつ適切に実施していると評価している。	A	・全職員がいじめ対応を組織的かつ適切に実施し、いじめをなくそうという気持ちをもって生活を送っている児童が前回調査(7月実施)より4%増え、9.5%となった。定期的な調査により学級集団の実態を組織的に把握すること、いじめの早期対応を未然防止につなげた。	A	・いじめの早期発見と組織的対応が解決に結び付いている。 ・児童には、自分は何とも思わなくても相手は嫌と思うと感じることはいじめであることをはっきり伝えるべきと感じる。 ・いじめをなくそうという心が育っている。今後も毎月のアンケート等で小さな芽も発見してほしい。	こころ部 教育相談担当者 生徒指導主事 主幹教諭
	◎児童の自己有用感を醸成し、夢や目標の実現に向けて、意欲的に取り組もうとするための教育活動の推進	◎学校評価アンケートで「夢や目標をもっている」に肯定的回答をした児童75%以上。 ◎Q-Uテストで、不満足群の児童が10%以下をめざす。	◎キャリアパスポートの活用と見通しをもった活動により自己の成長を振り返らせる。 ◎Q-Uテストで、不満足群の児童が10%以下をめざす。	A	・目標をもって努力し、良さを自認している児童は89%であった。Q-Uテストの不満足群は全校平均で約18%(全国平均は約23%)であった。学級集団への指導と個に応じた支援を充実させ、学校生活の充実を図る。	A	・目標に向けて努力し、良さを自認している児童は92%であった。Q-Uテストの不満足群は全校平均で約18%と、前年度より改善が確認された。学級集団に対して効果的な働きかけが行えた。	A	・Q-Uテスト、アンケート等で結果を数値化して評価し、指導、教育していくことは大変であるが、すばらしい取組である。アンケートで成果目標を大きく超えている。今後もQ-Uテストの結果分析の研修に取り組んでほしい。	こころ部 キャリア教育担当 主幹教諭
	○志と誇り、肯定的な気持ちや自信、主体的な考えをもって学校生活を送るための支援の充実	○学校評価アンケート「先生はあなたのように自分を認めてくれていると思いますか」に肯定的回答をした児童75%以上。	・「ほかほかの木」や社会性を高めるトレーニング等に取り組む、発達支持的生徒指導の充実を図る。	A	・88%の児童が教師からの賞賛を認識している。「ほかほかの木」に寄せられた個人の良い点を給食の時間に全校放送で知らせる活動を、委員会活動で児童が主体的に行うことで、児童相互で良さを認め合い、自己肯定感が高まっている。	A	・年間を通じて9割以上の児童が教師からの賞賛を認識している。年々、県の教育施策の「ほめるからはじめるはじめる」を意識した教育実践が行われたと評価できる。児童相互の認め合いも充実していることが児童アンケートからうかがえる。	A	・「ほめるからはじめるはじめる」は、とても良い取組である。 ・年間9割と高い肯定的回答。先生方が良い所に気付く、行動されている結果と感じる。 ・数値目標を大きく超え達成できている。意識の高さがうかがえる。	こころ部 キャリア教育担当 主幹教諭
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」	①運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒60%以上。	●体育科の体づくり運動等の中で多様な遊びやスポーツチャレンジを紹介し、教師も子どもと一緒に遊ぶことを推奨し、運動習慣の向上を目指す。 ②1年に2回生活チェック週間を設けて、自分でチェックし、改善を促すこと、生活習慣の改善を図る。	B	●1日1時間程度(1週間で420分)の運動をしている児童が概ね89%。休み時間には、外で遊ぶ児童が多く進んで運動に取り組んでいる。 ②42%の児童が「だいたい22時までに寝ている」と回答した。次の生活習慣の改善を目指す。	B	●1日に1時間程度運動している」に肯定的回答をする児童が80%を超えた結果であった。年間を通してスポーツチャレンジに積極的に取り組むことで子どもたちの運動習慣の向上を図ることができた。 ②79%の児童が「だいたい22時までに寝ている」と回答した。生活習慣の改善が期待できる。	B	・コロナ以降、やはり体を動かすことが減り、以前の状態に戻っている子供と戻っていない子供がいるように感じる。 ・就寝時刻については保護者にも課題があるように思われる。家庭とも協力して取り組む。 ・早寝、早起き、朝ご飯は一番大切で、親の仕事、目覚めが早いという点は、家庭からは不明。就寝時間の確保や望ましい食生活は家庭環境によって左右されるが、地道に取り組んでいきたい。	すこやか部 主任 養護教諭 栄養教諭 保健主事 食育担当
	②「望ましい生活習慣の形成」	②22時までに寝る児童が75%以上	●健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上	B	●5.7.8月の時間外勤務時間は前年度より減少した。金曜日の定時退勤は徹底できている。 ・職員の時外勤務時間平均は30時間を超え、昨年度とほぼ同じ時間だった。教育活動の整理・統合を進め、勤務時間を意識して業務を進めるといった職員の意識を図る。	B	・時間外勤務の職員平均は年間で31時間で実施できた。金曜日の定時退勤は徹底できている。 ・時間外勤務時間平均は30時間を超え、昨年度とほぼ同じ時間だった。教育活動の整理・統合を進め、勤務時間を意識して業務を進めるといった職員の意識を図る。	A	・先生方も休養を十分取って体力、気力を養い、頑張ってもらいたい。休めるときは休んでほしい。 ・忙しい勤務の中、先生方の上層を下回る時間外勤務に頭が下がる。	教頭
	③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上	・会議資料のペーパーレス化、電子掲示板活用を推進し、提案の簡略化を図る。 ・3部会で削減の視点で話し合い、「例年通り」を改善する。	B	・会議資料のペーパーレス化を実施している。更に改善の余地がある。会議の時間が上層を超えることがあった。電子掲示板の活用が進み、提案の簡略化が進みつつある。	B	・会議資料のペーパーレス化、schoolの活用で提案や連絡の簡略化をはかることができた。 ・行事計画で負担の少なくなる工夫をし、負担軽減につなげた。 ・ICT活用のミニ研修を実施し、タブレットの活用につなげた。	B	・ICT等の活用、省エネと思われるものは利用して、時間を有効に使うようにしてほしい。 ・今後もICTを利用し、負担軽減につなげてほしい。	教務主任 情報化推進リーダー
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ○ICT利活用、行事、会議の精選	●時間外在校等時間の上限(1か月45時間)以上が年間6か月を超えないようにする。守ることができた」と回答する職員を80%以上にする。 ○職員会議や研修等にかかる上限時間を80分とし、遵守する。 ○各部から1つ以上の改善案を提案する。	B	・定時退勤日を金曜日に設定する。 ・退勤目標時刻18:00から逆算し、放課後の時間を効率的に使って業務にあたることを意識する。	B	・5.7.8月の時間外勤務時間は前年度より減少した。金曜日の定時退勤は徹底できている。 ・職員の時外勤務時間平均は30時間を超え、昨年度とほぼ同じ時間だった。教育活動の整理・統合を進め、勤務時間を意識して業務を進めるといった職員の意識を図る。	A	・先生方も休養を十分取って体力、気力を養い、頑張ってもらいたい。休めるときは休んでほしい。 ・忙しい勤務の中、先生方の上層を下回る時間外勤務に頭が下がる。 ・退勤時間が30分でも早くなることを期待している。	教頭	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○生徒指導の徹底と学級経営の充実	○凡事徹底による規律ある集団と豊かな人間関係を育む教育の推進	○「開成スタイル」を実行していると答える児童75%以上をめざす。	・「開成スタイル」を全職員が共通理解し、具体的な行動目標を挙げ、凡事徹底を図る。 ・「友達」「職員」「家庭・地域」との和を深める。	B	・全職員が「開成スタイル」の内容と意義を理解し、具体的な指導を行うことで、92%の児童が規律ある望ましい学校生活を送るよう意識している。意識しなくても実践できていない内容があるので実践化が課題。今後、全校でSEL(社会性や情緒性の学習)を充実させる。	B	・年間を通じて9割以上の児童が「開成スタイル」を意識して生活することができた。しかしながら、「しているつもり」になっている児童が、実践には至っていないことが児童や保護者のアンケートの自由記述からうかがえる。今後実践化に向けた指導の具体的な手立てを講じる。	B	・「凡事徹底」に関しては、いつもできている子供とそうでない子供の差が見られる。地道に取り組んでほしい。 ・「しているつもり」の徹底に至っていない部分は具体的に示し、繰り返して教えるべきと感じる。 ・子供たちの意識はできているので、行動面を期待したい。	
○特別支援教育の充実と学力向上の推進	○子どもの個性や特性を大切に、きめ細やかで効果的な学習指導の充実	・意欲的に学習をすることができたかどうかを児童に4件法で自己評価させ、3.0を目指す。1単位時間や単元等で自己評価させることで、実態を確認する。	・主に国語科と算数科において意欲的に学習できるように、個々の児童の特性に合わせて支援する。特別支援学級支援員、生活指導員やICT等も活用する。	B	・自身の学習への取り組みを意欲的だと肯定的にとらえている児童は89%と高評価であるが算数科において「あらかじめ問題を解くと回答した児童は61%と低値。今後、粘り強く問題に取り組む態度を育てるために、個に応じた指導・支援を行う。	B	・85%の児童が「自分から進んで学習している」と回答している。学習への意欲喚起ができている。低学年においても学習者用端末の活用が進み、個に応じた指導に生かす事ができつつある。細やかな指導を困難な課題に対して粘り強く取り組む態度を育みたい。	A	・授業参観などでは、先生方の授業に対する工夫や熱意が伝わってきた。児童も熱心に学んでいる。 ・今後も、粘り強く取り組む態度を育んでほしい。 ・8割の児童が学習に意欲的。特別支援学級の教室でもICTを利用して考えの力を付けていた。	まなび部 主幹教諭 特別支援コーディネーター
○地域連携教育の発展	○地域のひと・もの・ことを取り込んだ教育課程とふるさとへのよさを実感する教育の推進	○学校評価アンケートで「学校や地域のよさが分かる」と答える児童75%以上をめざす。	・学級通信、学校便り、メール配信、HP掲載により積極的情報発信を推進する。 ・地域との連携により学習指導要領に沿った教育活動を推進する。	B	・87%の児童が学校や地域の良さを感じている。地域の方と児童が直接触れ合う機会を増やし、児童が感じている良さを発信する活動までつなげた。	B	・年間を通じて8割の児童が地域の良さを認識している。ボランティアで協力していただいている方々への感謝の気持ちを伝える機会を、地域の方々のご反力を再確認できるようにした。公民館活動への参加を促すなどの取り組みを通じて、地域を大切に思う心育を醸成している。	A	・児童が地域のたまたふれあい、活動することや活動できる場はすばらしいと感じる。 ・地域の行事などに参加している児童は固定化されているが、地域の方々への感謝を伝えていた。 ・成果目標より高い児童が地域の良さを認識している。	主幹教諭

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育										
5 総合評価・次年度への展望	・学校教育目標の実現に向けて、職員が「心の教育」に積極的に取り組み、児童の豊かな人間性の涵養に努めた。児童対象の意識調査からは、目標以上の成果が得られたことがうかがえる。次年度においても取り組みの発展的継続を図る。 ・生徒指導と学級経営に関する児童の意識調査は良好な結果が得られた。しかし、実践が伴わない「しているつもり」の児童がいると感じる。生徒指導の徹底のために具体的な行動目標を全校で共有するなどの取り組みの改善を図る。 ・学習者用端末の積極的利活用の推進により、特別支援学級在籍児童が自分のペースに合わせて学習したり、通常学級において学力差に応じて個別に学習課題を提示したりと、細やかな学習指導が行われている。 ・よりよい生活習慣の定着に向け、運動や食、衛生に関する指導を詳細に行った。前年度と比較して運動習慣の定着が図られた。午後10時までの就寝や朝食の喫食などの生活習慣に課題を抱える児童がいる。家庭との連携も充実させ、児童の健康増進に努める。									